



山口市仁保のカルメル会

創立40年を迎えた方
みである。



星の王子さま



祈りの人たち
〜継続の中にある力①〜

山口市仁保のインテ
ルサットのすぐ近くに
ある女子観想修道会の
カルメル会。現在日本
に9つの修道院がある
が、その7番目の修道
院として1979年に
創立された。小高い丘
の上に白を基調とした
建物で、今年創立40
年を迎えた。

社会から隔離された
空間の中の祈りと労
働。すべてが沈黙の中
で行われる。
聖務日課と呼ばれる
1日のスケジュールは午

前5時の起床に始まり、
夜9時の読書の時間ま
で沈黙の中での祈りと
労働の毎日、現在には11
人の共同体である。

紹介パンフレットに
は「神の声を聴く沈黙、
世界の声を聴く沈黙」
とある。この共同体に
引きつけられるのはな
ぜだろうか。

私たちは「雑音」の
中で生きているともい
える。今回、この記事
を書くにあたり「祈り
について改めて考える。
祈りはカルメリット

だけのものではなく、
私たちにとても大切
なもの。祈りがなけれ
ば私たちは動物と変わ
らない。この祈りと沈
黙が一体となる時、カ
ルメリットのように神
により近づくのだろ
う。しかもそれを継続
することが大切だ。継
続の中から新しい力が
生まれる。神に対して
絶対の信頼をもって継
続する中で神はそれに
対して特別の力を与え
られるのだろう。

勿論、継続の大切さ
は祈りだけではない。
先日、ラグビーがベス
ト8に輝いたが、その
陰には人に知られない
地道な日常の練習の継
続があったからこそ生
まれた結果だろう。

自分の生活を振り
返ってみると、「目に見
えるもの」を大切にし、
目に見えないものは軽
視しがちである。祈り
を軽視しているのもそ
のつだ。

先程、例に引いたラ
グビーもそうだ。継続
の大切さは日常生活の
中にもあり、スポーツ
はわかりやすい一例で
ある。そもそも生きる
ということとは継続だ。
一人の人間としてカル
メリットに学び、継続
の中から生まれてくる
ものに目を向けたい。
その意味でも近くに観
想修道生活を送るカル
メル会があることは恵
みである。



祈り人カルメリット

カルメル会から「リジー
の聖テレーズ・小さい
花の物語」という小冊
子が送られて来た。リ
ジーの聖テレーズは24
歳の若さで亡くなった。
その時はまだ全くの無
名であったが、没後15
年にして彼女の名前や
著書は世界的なものに
なる。その理由は亡く
なる前に上司から言わ
れて書き残した祈りや
その生き方が、今迄に
ない霊性とも言えるか、
神が望まれる小さな
道、愛の道、信頼の道
を切り開くものであった
かららしい。だからリ
ジーのテレーズは世界
中の人に大きな力を与
えた。彼女が言う「小
さな道」とは、赤子が
母親の腕の中で、絶対
の信頼に生きるように、
それを自分と神との信
頼への道として見出し
たからだと思う。
この他、「完徳の道」
を書き残した「イエズ
スの聖テレジア」もカ
ルメリットを代表する
聖人だ。

「祈りの人たち」、目
に見えない神に絶対の
信頼と感謝に生きる人
たち…ふとサン・ティ
グジュベリの「星の王
子さま」のキツネの「大
切なものは目に見えな
いんだよ」という言葉
を思い出した。